

広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 森 冬人



「新型コロナから回復した方も平穩に過ごせる町へ」

只見町で新型コロナウイルスの感染が確認されて、約1週間後にこの文章を書いています。今、皆さんはどんな状況でしょうか？

只見町ではこれまで1年近く感染者がいませんでした。多くの町民が感染予防のためにマスクや手洗い、不要不急の外出自粛をして頂いた事が大きく関与していたと思います。本当にありがとうございます。ただ、感染者がいなかったのは偶然でもあります。只見と同じくらいの田舎でも、かなり早い段階で感染者が出た地域もありました。

私たちが、家族や友人や職場の同僚を守るためには、やっぱりマスク・手洗い・3密の回避が大事です。ウイルスが人から人に移らなければ、いつか流行は落ち着きます。ただし、どんなに注意している人でも感染することはあります。99%頑張って注意していても、1%失敗することはあります。完璧な人なんてどこにもいません。私たちは、まだまだこの病気との付き合い合っていないといけません。何年続くかまだ私わかりません。

これからも町内で感染してしまう方が出るかもしれません。そして感染した人の多くは世の中へ戻っ

てきます。国内だけで20万人以上は退院して社会に戻っているはずです。私の願いは以下の通りです。

- ・多くの人にとって基本的な感染対策(マスク・手洗い・3密回避)が無理なく当たり前になる
- ・誰でも熱や咳などが続くときは仕事や学校を休める
- ・多くの人々が、感染してしまった方の不安な気持ちや苦しみを想像できる
- ・多くの人々が、無事に退院して仕事や地域に戻ることができた方を祝福できる

新型コロナウイルス感染症を発症しても、約7日後には周囲の人に感染することはほぼなくなります。通常、感染した方は最低10日間入院し、退院前に2回PCR検査陰性を確認しています。なので、周囲の人へ感染する可能性は非常に低い状態で退院してきます。回復された方も平穩に町内で暮らせることを願います。

地域おこし協力隊として

vol.74

只見町観光振興協力隊

よこやま よしみ
横山 儀巳



「46年振りに暮らす只見の冬」

観光商工課にて観光振興業務に関わらせていただいていたから10ヶ月、46年振りにUターンして迎えた只見の冬です。“クサムシ”の異常な少なさから暖冬かと予測する一方で、2年前、3年前は異常発生したにも関わらず2年続きの暖冬だったこともあり、それまでの“クサムシ”による通説は通用しなくなってきていると感じていたので、通説が逆説になって、もしかしたらこの冬は厳しい寒い冬が到来するのではと密かに心配していました。そして、その通りの寒い冬に…。ただ、中学時代まで過ごした46年前までの冬は、今の倍を超す積雪だったことを思い出し、いろんな暮らしの知恵や工夫で厳しい冬を乗り切ってきたことに思いを馳せました。

久し振りに暮らす只見の冬で感じたことは、一流の除雪技術です。長年に亘って培って引き継がれてきた除雪技術だと思いますが、夜明け前から除雪作業に入る自宅前の国道は、目覚めて外に出てみると

除雪作業を終えた後のきれいな道路にいつも感心させられます。

『生活文化観光』という言葉をご存知でしょうか。その地域で暮らしている人にとっては当たり前のことでも、気候や風土が違う生活圏の人から見れば、一つの観光資源にも成り得るということです。只見の冬の一大イベントである雪まつりがコロナ禍で中止になったことは残念で、来年こそはと期待したいところですが、雪まつりや只見線、河井継之助などのような観光資源と合わせて、これからは町内のあらゆるところにある風習や日常生活などにも目を向けた観光振興が必要のようです。

久し振りに只見らしい冬の到来ですが、凍結路での転倒、新型コロナ感染症、インフルエンザに注意し、暖かな春を心待ちにしながらこの冬を乗り切りましょう!!

(なお、本文は1月半ば時点での投稿です。)